
東方神起のごっしゃごっしゃな部屋

最強昌?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方神起の「いつかや」な部屋

【ZPDF】

Z2902P

【作者名】

最強団?

【あらすじ】

チャンミンは、家に帰つてみると、ヒョンたちの襲撃にあつ・・
それに耐えられるのか! チャンミン!

1話「末っ子の災難」

ガチャ・・・「ただいまー！」ドアを開けると広がる風景・・・暖かい部屋・・・でもあるのだが、なんだここの「ひつぢや、ひつぢや・・・「お～チャンミンーおかえり！」後ろから叩くつむさじ男。その名はジユンス。ジユンスは僕を見てこう言った。

「チャンミンこれ食べてみて！」僕はためらいもせずに食いついた。

口に広がる・・・「タバスコ」その瞬間薄れゆく意識の中、気がついた。

「これつくったの、ジエジュンだ・・・」そして、
「ジユンス、いつかやつてやる・・・」

（5分後）

「ただいまーいやあ、今日は疲れたなあ・・・つて！ええ！？」
チャンミンー！！起きろー！」

揺さぶられたことに気がついた・・・そして目を開けると、

目の前に、コンホの顔・・・

「うわあー！！！」飛び起きた・・・

「何だよチャンミンー！そこですーーし田を開けたまま死んでるから、
びっくりしたよ・・・」

そして、いきなり前から走つてくる美しい物体・・・

「ユノー！！あいたかつた！」

「僕もだよー！！」

抱きあう男二人。

気がついたら僕は、手を上げていた。そう、美しい物体にむけて・・・

2話「末っ子怒る」（前書き）

気がついたら僕は、手を上げていた。そう、美しい物体にむけて…

2話／末っ子怒る／

「ゴンツ！――！」

美しい物体は、僕を見てこう言った。

「チャンミーン！――！いたいよ！あつは！」

それをみていたユチヨンは、

「お～クリティカルヒット・・・ジエジュン・・・ドンマイ！」

しかし、僕にはまだやらなきやいけない人物がいる・・・

そう・・・ジユンスだ・・・

「ジエジュン！・・・ジユンスの居場所は？」

「さあ？どこでしょ～？（棒読み）」

プチッ・・・

「お・し・え・る」

「はい・・・すいません・・・チャンミン様。あちらでござります・・・」

ジエジュンが指差したのは、僕の部屋！――
さらに プチッ・・・

部屋に向かつて僕は走った。

「ジユーンス！――！」

3話～末っ子と次男～（前書き）

部屋に向かつて僕は走つた。

「ジユーンス～！～！～！～！」

3話「末っ子と次男」

ドアをあけると、そこに俺のベッドでねているジユンスが…

そして入ってきたことに気がついたのか、ジユンスが起きた。

僕は怒る心を必死で抑えながら言つた。

「ジユンス、さつきの事覚えてる？・・・

ジユンスは、とぼけた顔で言つた。

「ん？僕がなんかした？」

「チッ・・・

「あ～…しましたよ…え…？覚えてないだと？お？あやまれ…」

「あ～…！…すいませんチャンミン様～…～ビックリ命だけはおたすけを～…！」

後ろから僕を抑えるヒヨンたち。

ゴン「やめろよ～・・・

ジユ「そうだよ～！」

ゴチョ「いや、もつとやれ！」

ジユン「ゴチヨン！たすけるよ～・・・

こうなりや僕は止められないと思つたその時…

ジユ「チャンミン～ジユンス～やめないと…このデスソースくちにいれるよ～！」

僕とジユンスは、いつしゅんで青ざめた…

そして、

ゴン「東方神起ルールその1～けんかしたときは…はい～ゴチヨン！」

ゴチヨ「なんでしたつけ？」

「でつ・・・

ゴン「2人で飯食いに行くんだよな！」

ジエ「いつてきなさい！」

僕とジユンスは、2人で、

東京の街を歩いた。

4話「末っ子とハンバーグ」（前書き）

僕とジュンスは、2人で、東京の街を歩いた。

4話／末っ子とハンバーグ／

「わむいね！ チヤンミン♪♪♪」

「こつはなんも気にしてないよつだ・・・

「ジュンス、わつきの事覚えますか？」

「はい、すいませんチヤンミン様・・・あなたに激辛ピザを
食わせました・・・」

「では、僕に呟つ事は？」

「すいませんでした・・・今日は全部おごりしていただきます・・・

僕は心の中で「ヤリ〜・！」とおもつた・・・悪いが^_^

「じゃ、その代わりジュンスが食べたいもの決めてください」

♪10秒後♪

「ハンバーグ！・・・

ブツ！・・・

「ゼロッ、ゴホッ、うづ・・・ゴホッ！」

「チヤンミン！ なにがおかしいんだよーーー！」

「だつて、ゴホッ！ こど・・・ゴホッ・・・もみたいじやん！」

「いじからーチヤンミンーつこいくんのーいつもいつてるといじるが
あるのつー！」

そして、僕らは「ステーキのどん」になりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2902p/>

東方神起のごっちゃんごっちゃん部屋

2010年12月10日22時33分発行